

■令和7年度使用 中学校（特別支援学校の中学部を含む）用教科用図書の調査研究資料 ～理科～

調査項目	着眼点	調査内容	「調査項目」、「着眼点」の根拠
1 学習指導要領 (平成29年告示)	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成 (2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性 (3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 章末や単元末のまとめや問題、実験器具の扱い、安全面への配慮はどのようであるか。 ・ 観察、実験後の考察へ、どのように促しているか。 ・ 自然の美しさや科学の有用性を実感し、感性や知的好奇心を育むコラムが、どのように扱われているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科との関連、日常生活や社会との関連は、どの程度取り上げられているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究の過程において働かせる「理科の見方・考え方」が、どのように扱われているか。 	(1) 中学校学習指導要領解説総則編（P35） 各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力の観点 ①知識及び技能の習得 ②思考力、判断力、表現力等の育成 ③学びに向かう力、人間性等の涵養 (2) 中学校学習指導要領解説総則編（P49） 各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ること (3) 中学校学習指導要領解説総則編（P7） 資質・能力の育成を目指し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めること
2 第4次岐阜県教育振興基本計画 (令和6年3月策定) [2024(R6)年度～2028(R10)年度]	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 (2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価 (3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を深め広げるため、一人一人に応じた学習活動や学習課題は、どのように扱われているか。 ・ 異なる考えを組み合わせるよりよい学びを生み出すため、他者との協働はどのように扱われているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の成長や学習したことの意義・価値を実感したり、今後の学習に目標や課題をもって進めたりするために、学習の振り返りの場面はどのように扱われているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次元コードは、どの程度取り上げられているか。また、二次元コードの横に表示されたリンク先の内容には、どのようなものがあるか。 	第4次岐阜県教育振興基本計画（P6） <u>施策Ⅱ</u> 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成 (1) Ⅱ-8 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（P26） (2) Ⅱ-8 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成：教職員の指導改善・児童生徒の学習改善につながる学習評価の充実（P26） (3) Ⅱ-9 ICTを利活用できる力の育成：資質・能力の育成に寄与するICTの効果的な活用（P29）
3 印刷・製本等	(1) 教科書の厚み、重量 (2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等 (3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の大きさ（厚み）、重量、総ページ数はどのようであるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいその他の特性の有無にかかわらず、生徒に読みやすいものになっているか（書体、配色、レイアウト等）。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭、巻末資料には、どのような特徴があるか。 	